

## 1. 意見

私は、河川整備計画原案を早期に実施していただきたいと思っております。とりわけ下川町は、治水対策としてのサンルダムを建設する地先であります。これまでの流域委員会の中での議論からも、サンルダムによる治水対策が費用・効果の面でもっとも有利な方法と思っております。

また、魚道の設置やスモルトの降下対策など、今後も資源保護のために調査・研究を行っていくとすることで、十分な対策が講ぜられることも期待しております。

今年に入ってから、長野県が「脱ダム宣言」をとりやめ、ダム建設を進めていくという方向転換をしましたが、一昨年の大雨の時だっただけで、同じ流域の中でダムにより治水対策が行われたことにより洪水被害を受けなかった地域と、ダムがなかったために洪水被害に遭われた地域があったという事実から、そのような方向転換になったのではないかと思っております。

人命・財産を守り、そこに住む人が安全で安心な生活をおくり、地域が成り立つことが地域づくり・地域振興の上で、一番最初の条件であり、何より大切なことと考えています。また、そこに住む人の権利とも思っております。

近年、地球温暖化による異常気象がずいぶん取りざたされています。下川町は昨年、今までにない洪水に見舞われました。毎年秋季に河川が増水し、危険な状況になるのですが、昨年は春・秋の二回にわたり道路が冠水し、各所で通行止めや交通規制がかかり、畑が水について農作物に被害も出ました。住宅も水に囲まれたりと大変な状況となりました。

春の増水時には、行政の立場から町内各所の状況を見回りましたが、増水して堤防を今にも越えそうなサンル川を目の当たりにして、自然がもたらす力のすごさに驚きました。

夏にサンル川に釣りに出かけたのですが、中州に流木が引っかけたり、上流に進むことがなかなか出来ませんでした。川岸の木も倒れたり、流木が引っかけたりと、景観上もあまりいいとは言えない状況になっています。流木が河口や漁業に及ぼす被害について、以前に聞いたことがありますが、大変なものになると容易に想像がつかまりました。

また、農業においては、水田のはたす治水能力についても初めて知ることが出来ました。

森林と合わせて農業でも治水力があるということですが、それでも水は驚異であり、そのために治水は必要不可欠だということも理解しました。

さらに、利水から農家の方の水に対する強い思いも知ることが出来ました。昨年、名寄で開催された講演会で、中名寄地区の方達が水田の規模を拡大するとのことで、水利権はますます大切になるという話をしていました。治水と利水が裏腹にあり、一度にその問題を解決するためには、ダムの効果素晴らしいものではないかと思っています。

河川整備計画原案の中でも、河川の連続性について触れていますが、現在、天塩川本流・支流にかかる堰堤や砂防ダムについても、関係機関・団体の連携を図りながら魚道を設置したり、老朽化した砂防を撤去しながら、河口から源流までの連続性を保つ取り組みが、計画的に進められており、今後ますますの促進が期待されます。

下川町内においても、名寄川本流の奥名寄に、魚止めの大きな砂防ダムがあったのですが、何年か前に取り壊されており、現在はサクラマスも遡上し、産卵もしていると聞いています。また名寄川支流のパンケ川でも、名寄川との合流点から最初の砂防ダムが、既に取り壊されており、今後、ますますその効果がサケの産卵やサクラマスの産卵に現れることと、期待しているところです。

私たちは、この天塩川流域で、森林管理を行い森を育て、食糧自給率の向上のために農地造成や農地改良を行い、サケ・マスのふ化事業など栽培事業を推進し、地域の農業・林業・漁業・商工業の振興ばかり、よりよい地域づくり、まちづくりを進めながら、ここで生きています。流域の環境も十分に生活の中で感じて暮らしています。

今、地球温暖化対策が叫ばれていますが、下川町は森林整備に力を入れ、バイオマスボイラーを導入し、二酸化炭素削減計画を策定し二酸化炭素の抑制を図るなど、まだまだ十分な取り組みとはいえないかもしれませんが、今、下川町として出来る範囲のことはいろいろと取り組んでいます。

サンルダムは、二酸化炭素を発生しない水力発電を行う予定となっており、このような下川町の取り組みにマッチした施設でもあります。このような一地域での取り組みが、大都市や田舎でも、世界中にどんどん広がるのが二酸化炭素対策につながるのではないかと思います。

下川町では、サンルダムが建設されることにより、いかにその地域を活用し地域づくりにつなげるかを町民の皆さんと検討し、サンルダム周辺整備計画（案）を策定しました。ダム湖の北側には町営のサンル牧場が広がり、東側から南側には「森呼吸の森」を設定しています。森づくり寄付条例に基づき、全国各地から寄付をいただいた方たちの思いを、そこで森づくりという形にしなが、自然に配慮した周辺整備を進めようとしています。

地域の安全で安心な暮らしと、地域づくりの上から、天塩川河川整備計画（原案）が早期に進められ、一日も早い河川整備計画の実施を期待しています。